

「おはよう」「おはよう」で言葉の

通い合いのスタートを

一年(上)「あそびにきてね」の実践から

新しい学習指導を考える会

入学して間もない子どもたちは、学校生活への期待に胸をふくらませながらも緊張した表情をしています。初めて出会った友達や先生との関係を作っていくのは、これからです。楽しく言葉と出会い、友達との言葉の交流が心地よく感じられるようにするために、心と体をほぐす遊びを取り入れることを考えました。

一 あいさつついでリラックス

子どもたちが初めて出会う言葉として「おはよう」というあいさつの言葉はびつたりです。人と人とのつながりが生まれるからです。そこで、「おはよう」とあいさつをされたら、「おはよう」と返事をするあいさつついでついでしながら活動へ入っていくと楽しいのではないかと考えていきました。

誰でも参加できる支援は必要です。事前に、「どんな言葉を書いたらいいかな。」と投げかけて、渡すときの言葉を考えました。その話し合いで出た、「こんにちばさん、お手紙ですよ。」「今度遊びに来てね。」「などの簡単な言葉を板書しておいたり、「友達や先生のまねっこをしていいよ。」「と言葉かけをしたりすることで、安心して話せるようでした。それでも緊張する子には、教師がいつしよに言つと、声を出すことへの抵抗がなくなっていくきました。

手紙を配りながら、「ぼくの家に遊びに来てね。」「ありがとつ、楽しみだよ。」「お家は遠いのかな。」「その地図に書いてあるからね。」「などと、自分なりに考えたことを話す子もいました。」「やぎさんは紙が好きなんだね。食べちゃったら、分かんなくなるよ。」「こめんこめん。」「新しいのあげるよ。今度は、お手紙食べないでね。」「とお願いしたりもしました。」「さるは木に登っているね。どつやつて届けようか。」「と問いかけると、「ジャンプしようよ。」「大声で叫ぼうよ。」「バナナをあげると降りてくるんじゃない。」「などと、子どもらしい発想が生まれました。

遊びの中で、「先生、ぼくも手紙を書きたい。」「とリクエストがありました。しかし、「ここでは文字を書く学習

しました。遊びの力を借りるとスムーズにリラックスさせることができます。初めに、絵場面を見ながら登場人物を確認したり、「おはよう」の言葉をみんなでいつしよに読んだりしました。その後、友達に「おはよう」とあいさつしながら、握手をしてまわります。たくさんの友達といるような言葉を交わそうと投げかけ、リード役の先生が元気づけあいさつをする活気づきます。動物になつて動いたり、動物の鳴き声であいさつしたりするにより解放され、言葉が出やすくなるようです。さらに、好きな動物ごとに集まったり、誕生日で集まったりする仲間集めゲームへ発展するとお互いを知ることができ、次の活動への取り組みがしやすいことが分かりました。

二 郵便屋さんを登場させよう

うさぎの郵便屋さんを登場させると、子どもたちは大喜び。郵便屋さんは、最初は教師がやりました。そのうち、やりたい子が出てきましたので、交代で役割演技をすることにしました。身の回りの物を利用して簡単な郵便袋を用意し、その中に教師が用意した手紙を入れ、順に郵便屋さんになって手紙を配っていくと、そこで会話が生まれました。お面は、言葉を引き出すのに効果的だったようです。もちろん恥ずかしがる子もいますので、

は予定していませんので、文字は書ける範囲で書くことにし、絵中心の手紙を書きました。子どもたちは、自宅までの地図をかけた、「ここだよ。」「と、言葉を添えたりして手紙作りに熱中していました。もっとやりたいと声があがり、次の時間も郵便ごっこで遊び、楽しいひとときとなりました。

三 みんなで遊ぼう

みんなで遊ぶ場面も、想像がふくらむ場面です。導入として、教師が魔法使用に変身して想像の世界に引き込むと楽しくなります。「みんなを魔法で小さくするよ。チンプイプイのプイ。さあ、手のひらに乗ってるよ。」と言いながら、手をゆらしたり吹いたりくすくすたりして操ると、たちまち小さな動物になりきって動きます。

遊びの内容は、子どもたちの希望「おに」「かくれんぼ」「トランポリン」「だるまさんがころんだ」など、身近な遊びとなりました。なかでも、トランポリンごっこでは、「ぼく落っこちちゃった。」「キヤーたいへん、ねずみさんつかまって。」「ありがとつ。」「などと、自然に会話が生まれました。遊びを入れて場面を設定すると、身体を動かすことで言葉が出やすくなり、交流が楽しくなることを実感した実践でした。